

## 総 社 市 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 会 平成29年7月20日 午前 9時29分
- 2 閉 会 平成29年7月20日 午前11時 2分
- 3 場 所 総社市保健センター2階 資料展示室
- 4 出席又は欠席した委員

### 出席委員

教育長	山 中 榮 輔
教育長職務代理者	米 谷 正 造
委 員	林 直 人
委 員	小鍛治 一 圭
委 員	三 宅 眞砂子
委 員	上 岡 仁

- 5 会議に出席した者

教育部長	服 部 浩 二
参事兼庶務課長	弓 取 克 哉
学校教育課長	北 川 和 美
こども夢づくり課長	西 村 佳 子
参事兼生涯学習課長	渡 邊 節 夫
文化課長	永 田 忠 幸
学校教育主幹	下 山 郁 子
庶務課課長補佐	岩 佐 知 美

- 6 会議録署名委員

山 中 榮 輔	三 宅 眞砂子
---------	---------

- 7 付議事件

議案第17号 平成30年度使用小学校教科用図書の採択について

原案可決

- 8 議事の概要 別紙のとおり

【開 会】 9時29分

**山中教育長** それでは、ただいまから教育委員会を開催いたします。

この教育委員会には、議案1件が付議されておりますが、議案第17号については、議事の都合により、本日の日程の最後に審議したいと思いますのでご了承願います。

では、まず、会議録の署名委員についてであります。会議録署名委員は、会議規則第16条の規定により私のほかに出席委員中、三宅委員をお願いいたします。

**山中教育長** では、教育長報告をいたします。

昨日から小学校・中学校とも夏休みに入りました。夏休み前に6月23日から7月の20日の間で、幼・小・中の現場を見て回ったのですが、幼稚園9園・小学校5校・中学校3校の合計17校、回らせていただきました。この中で感じたのは、エアコンの設置が進んでいるんですが、中学校は少人数学級をやっているんですけども、ここにエアコンがなく、そういうところが漏れていたかなと思います。幼稚園は7月の始めから半ばにかけて回ったんですが、子どもたちは部屋の中で汗びっしょりで髪の毛がべったり貼り付いているような状態の時期がかなりあって、やはり幼稚園にもエアコンを入れないと暑いかなと思います。外では元気に遊んではいませんが、中で通気性のないところでそういうことをやりますと、病気になったり、体力を消耗しますし、そうすると教育もきちんといかないので、特に発達障がいの子どもたちはそういうのに耐えることが難しいので、幼稚園にもエアコンを入れるように市長をお願いをしていこうと思います。

それから2点目、学力テストの結果ですけれども、後で説明がございしますが、小学校の低学年3年生・4年生に力を入れるようにしてきました。そういうところを学校にお願いしてきました、少しずつ成果が上がってきていると実感しております。また詳細は後ほど説明いたします。教科書採択につきましては最後にご説明いたします。

もう1点は設備関係です。教育に関する設備関係の建設案件が非常に多くて、まず、総社小学校・給食調理場・総社保育所の認定こども園化・維新幼稚園の耐震化と、それ以外に中央小学校の放課後児童クラブがパンクしそうで、来年度はおそらくパンクする。中央小学校の子供たちの増加具合は予想以上に早い。来年は教室がいっぱいになりそうです。そういう状態で先手を打ってやるのがすごく大事だと思っております。現場をずっと回って感じたのですが、平成24年から5年かけて設備の劣化更新対策計画の実施をしたんですが、かなりあちこち傷んできているので、これもその都度ではなくて、3ヵ年か5ヶ年計画を作って実行していきたいと思っております。

何かご質問がありましたらお願いします。

【質疑なし】

**山中教育長** 次に、報告事項等に移ります。では、「岡山県学力学習状況調査の結果について」事務局から説明願います。

**北川学校教育課長** 【事務局説明】

**下山学校教育課主幹** 【事務局説明】

**山中教育長** ただいまの事務局の説明に対するご意見等はありませんか。

**林委員** この問題は、県の独自の問題ですかね。それとも過去にやっていた問題ですかね。

**下山学校教育課主幹** この問題は県が業者を選定しまして、業者の標準学力テストになっております。業者は東京書籍を採用しております。東京書籍の標準学力テストの1学期版を使って実施したものです。総社市は去年までも、小5と中2が市の独自のテストをさせてもらっていますが、この業者が東京書籍さんだったので、県が実は、東京書籍のウェブ調査支援システムというものにお金を払いデータを見れるようになっておまして、その中で過去データがありまして、ここを探ると、たまたま以前に東京書籍さんを使っているんで、総社市のデータとリンクしているので学校ごとの概要なども見ることができます。

**上岡委員** 中1から中2への伸びが大分違います。これはとても中学校の頑張りでしょうね。部活動の問題もあって、平均正答率40%以下の子どもも増えているような状況で、全体として中学校1年生から2年生に上がる時の多感な子ども達をここまで引き上げてくださったのは教育委員会や学校の先生方の努力のお陰だと思っております。一方で、夢や希望を持っていないというのはキャリア教育に響きます。ですから学校の全体計画とか、年間指導計画を確認してみる必要があると思います。職場体験学習については全てがキャリア教育ではないわけで、経済的な能力を養うにあたって、子供が役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していくということで、例えばこういったことかと、学校全体で取り組んでいただきたい、指導していただきたいと思っております。

嬉しかったのは、秦小学校が地元なんですけどボロボロだったのが少し伸びていた。教頭先生が校内研究で初めて、テストの問題をみんなで解いたと聞きました。それまでは実施されていなかったんですね。これから本気でやっていくと思うんですが、本当にやっているのかというのをもう一回聞いてみていただければと思います。ここに、これからどうするのかというのがまとめが書いてあるんですけども、小テストはチェックだけではなくて、リサーチの部分もあると思うんですね、低学年は。今後どうするのか。リサーチとチェックをやった学年はどうなのか、その2つの視点でやっぱり考えていただければと思います。

**下山学校教育課主幹** ありがとうございます。本当におっしゃる通りだと思います。ただ、11日に学力向上の担当者会をさせていただいて、先生方に議論をしていただきました。資料の中でいいますと、小学校ごとのデータがあるのですがこれを見ながら、どうつぎ合わせていくかという議論をしておりますし、また、資料の7ページに事前に資料を出してもらい、とりまとめしています。キーワードをあげさせておりますけれども、「成果があったと思える取り組みは何か」「課題であると捉えたものは何か」「今後の計画として取り組みをどのように小・中が連携していくのか」と、1時間近く、私たちも同席させていただいておりましたけれども、私たちは15分くらいの説明だけで、後は先生方だけで話し合いをしまして、残りの1時間弱

2つの視点で協議をしていただき、キーワードを出しておりますけれども、「大事にしたい・やりたい」と思うところは応援していき、その中で学校が「思いを1つに」という発言がたくさん出ていたということをお伝えしたいと思います。

**山中教育長** 学力テストの結果を受けての担当者会議に私も出席しました。学校ごとに取り組みが大分違うんですけれども、成果が出ているところを各小学校・中学校とも参考にして取り組んでいくということがすごく大事でありまして、それともう1つは、先ほどの低位の子どもたちの対応がありましたけれども、やはり個別指導になるかと思うんです。それをどうやって大規模校でやっていくか、小規模校はやりやすいんですが。もう1つは、授業した後のチェックアクションのサイクルを早くする。新本小学校が非常に成果が上がってきているのは、そこが出来ているからだと思います。東中が中々うまくいかないのは、抜本的に考えないといけないのは校長も認識しております。西中は少しずつ上がってきている。これはかなり低位層対策をしっかりとやってきている。少人数学級にして、そういうところが少しずつこれから成果が出てくると。学年ごとのフォロー、1人のフォローは東京書籍のデータで出来るようになりましたので、これから定量的にどのようにしたらどうなったか先生自体にフィードバックできると思うので、もう少し成果が加速して上がっていくのではないかと思います。私自身期待しています。

**上岡委員** 平均正答率40%以下の中学2年生への対応というのは書いてないのですが、認識があまりなかったと思うんですけれども。それについては、どのように指導・支援されていきますか。

**山中教育長** それについては私が厳しく言いました。「低位層をやれ」と。東中は何度か授業参観したんですけれども、例えば協同学習をしても、形だけで、全然それに参加してない子どもがいたとしても教員がサア〜と通って行っている。そういうところから、もう一度きちんと教えていかないといけない。それは、校長も見ていましたので。

これは協同研究会のときに私も参加したんですけれども、その後みんなで集まって協議するときに私が「協同学習になっていない」と言いました。「もう少し実があがるように、形だけでは駄目だ」と。教員のばらつきが非常に大きいということです。そこをどうクリアしていくかということが課題です。これは校長の指導力にかかると僕は思っていますけれども、教育委員会もそこをサポートしていかないといけないと思います。学力をあげることが一番シンプルだと思いますね。結果がすぐに分かりますから。なかなか難しいですけれども。

**下山学校教育課主幹** 東中のほうはおっしゃる通りで、この資料を出していただいたのは、担当者会前です。担当者会が終わってその後、担当者会で議論したことを受けて、校内で研修の時間を取られまして「このままではいけない」と、「思いを1つに」ということを大分話されたかと思います。これから、低位層を上げていくことに手立てについても取り組んでいくように聞いております。

**山中教育長** 東中は成績が良かったのにこれだけ下がったということは教員は日常に忸怩た

る部分があると思います。特に校長は非常にショックだったと言っていますので、来年に期待したいと思っております。

**小鍛治委員** 20ページの3番の「普段月曜日から金曜日までに1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームや携帯をするか」ということで、月曜日から金曜日までで結構な時間だなと見て思ったんですが、今日配られた資料の中に、メディアコントロールを今後、キーワードとしてあげたところが3校しかなくて、一番出来ているのではないかなと思うのが昭和中学校で取上げられていて、家庭学習の時間を増やすようにと書かれているんですが、やはりこういったことを、メディアコントロール週間や色んな対策といいますか働きかけていただいて、こっちのほうを減らして家庭学習を増やすという意識をしていただいたほうが、中学校がそうだと、小学校や幼稚園にも影響していくものだと思うので、保護者からすると、そういったところを声を大きくしていただければ有難いと思います。

もう1つは、土日や休みになったらもっと多くなってくことは当たり前だと思います。特に夏休みに入ったりするとこれが犯罪とかに繋がって来るのではないかという心配もあると思いますので、普段からそういった指導は難しいと思うんですけども、何かアイデアを出していただいて働きかけていただければ有難いと思いました。

**下山学校教育課主幹** 20ページの資料の通り、1時間以上を50%以下を目指すというふうになっていますが、小学校5年生・6年生、中学校1年生・2年生も総社市全体で65%から70%以上の子が1時間以上やっているという状況です。県下でも、中学校区小・中連携でメディアコントロール週間の設定をして、中学校のテスト週間中に合わせて取り組みを1週間単位でチェック表もつけてされてはいるんですけども、結局その期間はやっているが普段となるとやはり無意識にはなっていないということで、こういうところに出ているのかなと思いますので、意見をまた学校のほうへ出していかうかと思います。

**小鍛治委員** 学校が終わって寝る時間まで、限られた短い時間だと思うのですが、それがこういう時間に使われるということで、同じように勉強もしていただけたら有難いんですけども、多分紐解くと、睡眠時間も絶対減っていると思うんですね。身体にも影響するし、全てに悪循環になるのかなと。

**山中教育長** 家庭学習時間のグラフがまったく違う学校があるんですが。ここには学校ごとではないんですね？昭和中学校の1年生ですが、明らかに違います。それは、なぜかと言うと昭和小学校できちんと学習習慣をつけたということ。設楽先生ですが。これは東校長がお墨付きですから。設楽先生がどうやったかということをもみんなで共有したらよいと思うんです。そういうデータを、出来たらコピーを見せていただいたら、どれだけ違うか分かります。昭和中学校1年生の子達も落ち着いています。結局、教員と家庭とのコミュニケーションや先生が生徒にどう理解させるか、これに尽きるのではないかと思います。なかなか難しいですけども。それを、設楽先生がやったということなので、ノウハウを盗んでやれば上がっていくと思います。それぞれ、先生方は努力されていると思うんですが、そういう成果が上がっているの

を共有するというのは凄く大事だと思います。

**下山学校教育課主幹** 少し補足なのですが、キーワードとしてメディアコントロールの取り組みをあげている学校が少なかったと思うんですが、実はタイムコントロール、タイムマネジメントという、時間管理の意識というものを子供達に根本的に身につけさせるべきではないかということが、多くの先生方から出てきていました。ただ先生がいけないと言うのではなく、子供たち自身が計画を立てて、ここはテレビを見る・ここまでは勉強するというようなタイムマネジメントを計画的に自分でコントロールしていくような、根本的なことを取り組んでいくということも意識していこうということも話しておりました。

また、家庭学習で自主学習というキーワードがたくさんあったと思うんですが、家庭学習、自軸学習というところが学校から出来ることで、そういうところも要素にしていこうと話になっています。

**北川学校教育課長** 加えまして、メディアコントロールというところを今ご指摘いただいているんですが、資料のその上にずっといった真ん中の家庭学習のここに対しては、多くの学校が課題意識を持っておりまして、中学校でも家庭学習が定着していないということが明確にお持ちです。その家庭学習を充実させると自ずとメディアコントロールであったりタイムマネジメントのほうもリンクする、当然そうなると思います。この表の中には整理ができてはいませんが、委員が仰ったように、我々がその視点を与えることでより総合的に学習効果をあげていくというふうに考えます。ありがとうございます。

**上岡委員** 他に21ページなんですけど、これは難しいんだと思うんですが、新聞の活用ですが、これは学びの基礎力の上に更に学びに向かう力をつけさせることで学力にも繋がり家庭学習ともリンクしているんですけども、何か良い方法はないですかね。本は読みなさいと言われて読むものではないので、先ほどのタイムマネジメントではないですけども本を自分で読むという習慣を小学校では図書室を使う時間を設けており、中学校はいい加減なので、その辺のこととか、あと、新聞を活用するようなNIEをしなさいとは言いませんが、その視点が先生方にあるのかどうか気になりますね。何か良い方法があれば教えてください。

**三宅委員** 新聞を読んでいるかということなんですが、新聞をとっていない家庭もあります。おじいちゃんやおばあちゃんがいるところはとっていると思いますが。新聞配達は衰退しており、時代が変わっているので、「新聞を読め読め」だけではなかなか変わってくれないと思います。

**山中教育長** 本も買わないんですよ、親が読まないし。本棚がない家があるわけですよ。だから図書館でしか読めない。持って帰ることもできないし。そういうコンディションの中でどうやっていくか、生活スタイル自体が変わってきているので、極端な話、先生の中でも新聞を読まない先生はいますからね。そういうところも、個人のところまで入りますけれども、どうしたら良いのかですよ。活字を見るというのは凄く大事なことですけれども、何か宿題を与えて読書感想文を書いてくるとか、そういうことくらいしかなかなか出来ない。新聞作りは

山陽新聞がやっていますが、全部の学校となるとなかなか難しい。少し、工夫はしないとけないと思います。頭の痛いところですね、活字から離れていくということは。

**上岡委員** ある中学校の話なんです、朝読の時間を週に3回とっていて、2回は小テストで残りの1回は新聞記事を学年主任が講読して新聞の記事を作って回したりだとか、それだと家庭に新聞をとっていないところは新聞記事に触れる機会にはなりませんよね。それが良いとは言いませんが何か方法を考えないとけないですよ。新聞記事に触れるということは必要なことだと思います。

**米谷委員** 非常に成果が上がっていて、もう1つ良かったと思うのが、子どもが「学校が好きである」とか先生が「よく見届けている」と両方の値が同じように上がっていることが、非常に評価できると思います。中学校の英語で、昭和中学校が市内で一番高かったのは特区の成果かなと思いました。あと反面、やっぱり学校の規模によって上下幅が各学年によって出てくるのでその辺りの触れ幅がもう少し小さくなれば、もっとよいのかなと思いました。

**山中教育長** では次に、「子ども美術館の開催について」事務局から説明願います。

**永田文化課長** 【事務局説明】

**山中教育長** ただいまの事務局の説明に対処するご意見等はありませんか。

**林委員** 偉人はどういう人選なんですか。

**永田文化課長** 総社にゆかりのあるということで、総社を題材にしているとか、平山先生も吉備路を描かれていたりとかいったところです。

**林委員** スケッチ体験の定員10人は少ないのではないのでしょうか。

**永田文化課長** かなり大作が多いので会場内に納められる数は決まってくるので。市のほうで所蔵している作品の展示がありますので。

**山中教育長** 他に報告事項等はありませんか。

**弓取庶務課長** 各年で実施しています、教育委員会の行政視察につきまして少し決めていきたいことがあります。前回平成27年には、資料にあるように「滋賀県の前橋の認定こども園」「富山市の学力向上不登校0対策」ということで実施しております。予算については概ね東京1泊2日程度を計上しております。時期的なものは、10月中旬から11月下旬の比較的気候の良い時期でもありますし、相手の行政の議会の間ということもあります。今、総社市が教育行政として掲げているこれから目指すべきところを視察先について皆様からご意見いただければと思います。もし今日、日にちのほうが決めるのであれば、決めていただければと思います。委員の皆様のご事情もお聞きした上で決めさせていただければと思うのですが、水曜日か木曜日というところで考えております。時期的には11月の8・9日、もしくは11月の1・2日の辺りでいきたいなと思います。また、視察先ではありますが、やはり総社市は過去の実績のほうがあり、その時そのときのトレンドもあるとは思いますが、私から意見をいうと、これからの子供たち、増え続けております発達障がいなどを先駆的に、教育と福祉が一体となっているところも1つのテーマかなと思いますし、今、認定こども園を着手しておりますので、

再度新たな認定こども園を視察先として候補にあげてもよいのではないかなと思います。あとは、全国屈指の福祉会議を市のほうで設けておりますけれども、その中でも引きこもり、不登校などを取り組んでいる自治体・学校の現場もリストとして考えられるかなと思います、あげております。

**山中教育長** 何かご意見があればお願いします。

**弓取庶務課長** 視察先につきましては、次回の8月の教育委員会でそれなりのお示しをしたいと思います。できれば今日は、日にちのほうを決めさせていただければと思います。

【行政視察の日程調整】

**弓取庶務課長** 11月8・9日で進めさせていただきます。次回の教育委員会で中身のほうを議題としてあげさせていただけたらと思います。

**山中教育長** 他に報告事項等はありませんか。

**服部教育部長** 追加で2点ほど報告があります。

お配りしている資料の中に写真のような資料がお手元にあるかと思います。実はこれは、総社保育所と井尻野幼稚園を1つにした、認定こども園を計画しております。まだ、設計を進めているところで、地域の方とか現場の方と相談しながらという状況で、上岡委員さんからご紹介いただきまして、少し色んなところを勉強したらどうかとお話をいただきました。7月の11日に福山市であります、認定こども園でつくし会というところへ、私とこども夢づくり課の担当職員計5名でお伺いして、現場を拝見しました。園長先生が2時間くらいかけてお話をしてくださったんですが、写真を眺めていただければ、非常に特徴的な施設ということが一番かなと思います。規模としましては205名程度で、清音認定こども園より少し小ぶりです。以前は40年くらい保育園として経営をされておったと、立地的には山の手側の住宅の中にある立地で、非常に狭隘といいますか住宅街の中にありますので、場所がとれないというところで、色々工夫されて運営されています。実は0歳児の部屋を別棟で作っておられまして、その専用棟についても非常に特徴のある造りでした。保護者の方が周囲から見えるような構造であったり、フロアにしても傾斜を微妙に設定してみたりといった、先進的というか、狭いながらも非常に工夫がされているなど感じました。また、保育そのものの理念というのは施設以上に印象的だったんですけれども、ある意味地理的な狭い部分を逆手にとっていかに質を追求していくというところは新鮮な感じがしましたし、そういったものを考え方として取り入れていけたらと思っています。これはかなり有名な設計会社らしく、我々も設計会社とも話をして、生かせるところは色んなものを盛り込んでいけたらと思います。

**西村こども夢づくり課長** 私も見に行かせていただいて、園長先生のから長い時間お話を聞かせていただきました。その中で、子どもに対するまなざしというところを大切にされており、小さい子どもが寝ている姿が見れるというふうな、先生の顔が見れるということをととても大切にされているなど感じました。また、子どもの目線・高さを大切にされておられました。小さいお子さんの目線に合わせた工夫をしておられ参考にしたいと思いました。先ほど、部長が



申し上げたとおり、金額もありますので取り入れるところ、取り入れないところを考え、良いところは吸収して作り上げたいと思っております。

**西村こども夢づくり課長** あと、前回の教育委員会でご質問のあった部分につきまして、2点ほどお答えさせていただきます。まず、今日お配りした資料の中の平成29年度処遇改善につきましてご説明させていただきます。これにつきましては、2種類用意しております、まず一つ目は「質の向上の一環として全職員に対して2%、月額6千円程度の処遇改善をする」、これは元々平成27年度に3%の9千円ほど処遇改善をしております、これにプラスあと2%残っておりますので、その2%を入れた6千円を入れた形で今回上乘せさせていただきます。また、今年度から新たに加えられた処遇改善加算が資料の中で、「新」と書かれたものが新しいものでございまして、まず副主任保育士と専門リーダーを新設し、これで月額4万円アップするというのが1つであります。これは保育士の全国的平均勤続年数約8年ということで、中堅の手前でどんどん辞めていっていることがあるそうで、主任になるまでの段階に副主任保育士と専門リーダー職を新設し、この人たちを対象に月額4万円とし処遇改善をしていく予定です。要件としましては、資料の下にございます、経験年数が概ね7年以上、またキャリアアップ研修の内4分野以上の研修を受講すること、これは今年度につきましては免除される予定です。また、園が公式に発令・辞令を出すというようなものでございます。今後、7年以上勤めて研修を受ければ全員もらえるかと言いますと、そうではございません。

1園当たりの上限人数がありまして、園長・主任保育士を除く保育士等全体の概ね3分の1の方が対象になります。これは、定員90名の園で標準的な計算で保育士の必要数を出すのですが、その3分の1が大体5人程度になります。また、小規模の事業所の場合は12人定員ですと園長を除きますと保育士は4人配置ですので約1人という形になります。次に職員の配分方法につきましては、4万円の配分につきましては園の判断で園長を除く職員にも配分が可能ということになっております。先ほどの例ですと5人が対象になりました。5人×4万円で20万円を毎月園は貰えるんですが、これを5人に配分しても良いですし、7人・8人とかに配分しても良いということになっております。但し、保育士の2分の1につきましては4万円を配分しないとされています。2分の1の方は5人のうち2.5人の切捨てで2人、2人には4万円を配分しないとイケません。しかし、他の人たちは残りのお金の月額5千円以上4万円未満であれば何人にでも配分しても良いということになっております。今回の処遇改善の大きな目玉になります。

あと1点、市内の民間保育所の正規職員の給与につきまして、前回ご質問があり、また全国で比べてもどうなのかというところもお話させていただきたいと思っております。まず、厚生労働省の平成27年度の賃金構造基本統計調査というのがあり、その中で、保育士の給料は全国平均で「平均年齢35歳・年収323万3千円・平均勤続年数7年7ヶ月」ということでございます。保育士の民間保育所の給料は園によってかなり差があります。少しずつ給料を上げていっているようですが、全体的にまだまだ安い部分もございます。また園によって平均年齢

が高いところもございますし低いところもあり、色々とバラバラしています。保育士不足解消のためには処遇改善を、国も行ってまいりますし、私どもも今年度年額2万円の保育士手当を支給することにより、他市と比べて多いとは言えませんが、これをしっかりPRしまして保育士確保や離職防止につなげていきたいと考えておりますし、また、これと並行して市内の保育士に給料や勤務状況など保育士不足改善の現状周知アンケートを実施し、その結果なども随時教育委員会でお知らせさせていただきます。

**山中教育長** よろしいでしょうか。

では、次回の教育委員会の日程についてであります。既にご承知のとおり、8月18日午後1時30分から開催いたしますので、ご参集願います。

この際、9月の教育委員会の日程を調整したいと思います。事務局から提案願います。

(9月の教育委員会の日程調整)

**山中教育長** では、9月の教育委員会は、9月25日午後3時から開催いたします。

**山中教育長** 最後になりましたが、議案第17号「平成30年度使用小学校教科用図書の採択について」の審議に入ります。本件につきましては、教科用図書に関する議案であり非公開にしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

(異議なし)

**山中教育長** では、本件の審議は非公開といたします。関係職員以外は退席をお願いいたします。

【非公開審議】

では、これで審議がすべて終了いたしましたので、本日の教育委員会を閉会いたします。

【閉 会】

閉会 午前11時2分

上記記録している内容は、正確であるので署名する。

平成 年 月 日

教育長

委 員

職 員